

銀杏学園 同窓会だより



学長 上野直彦

「偶感」

年をとる毎に時の流れの速さを痛感する。銀大の前身である熊本医技専が、化血研本館二階の一隅に誕生したのも、つひ昨日の様に思はれるのに、早や四半世紀が過ぎた。その概要は高木厚生課長の文に譲る。

当局の認可が遅れた為、一期生の入学は六月となった。学生も教員も一体となり、夏休みも返上して、教科の消化に取組んだ。三月の卒業を目指したのであったが、当局の指示で六月卒業となった。

今でも脳裏を離れないのは、知識技能を吸収しようとする学生諸君の熱い眼差しである。数年前、北京大学院を訪れたが、近代化運動の中とあって、中国学生の顔にも同様な表情がみられた。研究室の設備は貧弱そのものであったが、創意工夫で補ひ、先端のテーマを扱って居た。

開学の年、米国血銀協会の学会に出席の序に、大学や研究所を視て廻ったが、彼等の水準の差は歴然として居た。戦後の混乱も一応治り、米



前会長 沢渡勝己

六反田学長を偲んで

同窓生の皆さんにはすでに御承知の通り、六反田学長がお亡くなりになられて丁度一年になるわけですが、先日、先生の一年忌が執り行なわれたところであります。

同窓会におきましても、今回報告を掲載することになり、新ためて会報を通して同窓生の皆さんに、お伝えするということで投稿することになったわけでありました。

六反田学長は、昭和五十九年三月八日かねて病氣療養中のところ、77才でお亡くなりになられたわけでありました。生前の先生は幾多の偉大な業績を残されたことはすでに御周知の通りであります。この中でも特に医療技術の進歩に伴って、これらの技術者の育成に当たられ、多数の技師を社会に送られてこられたわけでありました。しかし、昭和三十三年に臨床技師令が公布され、医療技術の高度化に対応するためには

国に迫る。追越せのローガンの下に、今や我国も見事経済大国となり、猿真似時代から脱して、自ら先端技術を開発するまでになった。

科学は日進月歩と言はれる。しかし、人類の歴史に比ぶれば一瞬にも満たないこの四半世紀程、飛躍的發展を遂げた時代はないであらう。

現に皆さんの研究室には自動分析器があり、ポタン一つで成績がプリントアウトされるまでになった。ここに至っては最早引き返しはしない。更に進展を続けるであらう。

科学の進歩、それはそれなりに評価されるべきであるが、人類の福祉に連がらねばならない。

まして、医は仁術を標榜する従事者に取っては、人類愛こそ発想の原点でなければならぬ。

Nur ein guter Mensch kann ein guter Arzt sein. とは医師に向けた言葉ではあるが、何の職業にも通ずる。真に心の優しい人のみが立派な職業人たり得るのである。

組織だった正規の教育を行なう必要があり、昭和三十四年に化血研に技師学校を付設され、医学技術専門学校として設立に至ったわけでありました。その後、二年生短大、三年生短大、看護学科の設立といった今日の銀杏学園短期大学を精力的に築き上げられ、幾多の検査技師を医療界に送りだされました。

今も先生のスリッパの足音が聞こえる...

私事を言わせていただくならば、私と先生との出会いは昭和三十三年であります。先生は昭和四十五年九月、化血研所長として就任され、今日まで化血研の所長でもありました関係で、以来先生とコンタクトの機会も多く感慨無量であります。

私は昭和五十八年十一月体調をくずし二ヶ月程入院することになりました。入院の前日、所長室まで御挨拶にお伺いし症状等を申し上げたところ、「それはいかん」と大変御心配され、手遅れが一番いかにいろいろな例を挙げられてお話をきかせていただいたわけでありました。



会長 藤井 勝

会長挨拶

桜前線も間近になり、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

早いもので、前回の技術講習会、合同クラス会より一年を経過してしまいました。

ふり返り見ますれば、昨年の三月八日同窓生の育ての親であり、大恩師でもある六反田名誉会長が逝去され、早くも一年が過ぎてしまいました。私達同窓生の黒柱として、御指導、御援助下さいました。今となっては、それもかたがたいませぬ。ここで師の教えを無駄にしないため、同窓生一丸となって物事に対処していきたくを考えます。

昨年の秋には九州学会が熊本県の担当で開催され、同窓生の役員の方々が、その準備委員として活動され盛會裡に終了しております。例年、技術講習会に対する準備活動は、前年の九月頃より行っておりますが、前述の様な事情で講習会の開催が遅れておりますが、本年の五月の全国学会時に、今回は総会並びに、懇親会を開催することになりますが、会員の皆さまには誠に勝手な事情で申し訳ございません。何卒ご容赦下さいまして、御協力下さいます様にお願ひ申し上げます。

私の方は入院加療によって順調に回復し昭和五十九年一月末無事退院することが出来、改めて退院後の御挨拶に伺ったわけでありましたが、その時は先生は体調がわるく、休んでおられるとのことで、では、出てこられるのを待つことにして、それから改めて御報告するつもりでございましたところ、とうとうお会い出来ないままとなってしまったわけでありました。心配して下さっていたので、一言元氣な姿でお会して報告出来なかつたことが一番心残りではないわけでありました。

私と先生は同じ化血研でありましたのでいろいろな形でお会することも多く、私が今日あるのも先生のおかげであることを考えますと、今だに信じられない感じがしてなりません。よく私共の仕事場にも寄られて、いろいろお話をきかせて下さったことも多々あり、今日もスリッパの音をひびかせてこられるような気がしてなりません。しかし、先生はもう帰らぬ人となられ、誠に残念でありませんが、我々の今日を作った下さった先生に、同窓生一同に介して、心から御冥福を御祈りする次第であります。



学生部長 松崎真人

銀大近況報告

昨年二月の同窓会に於いて、①看護科の発足②教員の移動(学科長就任を含む)、③国家試験合格等、簡単に報告しましたが、この紙面では五十九年四月以降の人事、教育(特に実習)、国家試験の合格率、教科外の行事(学園祭等)などに就いて報告すると共に、卒業生諸氏にお願い事があります。

①人事について

昨年三月八日に六反田藤吉前理事長兼学長がご他界された事、新理事長に市原鶴雄理事、学長には、卒業生諸氏が良くご存じの上野直彦教授が就任されました事をまづ重大ニュースとして報告します。学科長につきましては本年度は変更は有りませんでした。来年度は移動があるかも知れません。

一般教員については、野中実男教授(微生物学)は化血研所長になられた事で退職、名誉教授になられました。内田慎男教授(生化学)は定年で専任を退かれますが、非常勤講師として看護科学の指導に当たられます。

非常勤講師では、誰知らぬ者(医技専の一回生以来)はない優しい(?)神原先生が熊大医学部長になられた事により、多忙を理由に勇退されました。神原先生の今後の益々のご発展を祈りましょう。

新任及び昇格の教員には、山田昭教授(微生物学)が就任、また三村孝俊講師(血液学実習)が誕生します。

事務部、教務課、厚生課では、事務部長に友野靖氏(化血研)、教務課長に北原義則氏(化血研)、厚生課長に高木一路氏(化血研)が五十九年四月から就任しております。特に卒業生諸氏と関わりのある厚生課長を紹介いたしますと、ずっと以前のひと違つて「怒らない、優しい」課長です。ですから就職のことなど気軽にご相談下さい。銀大厚生課では人材銀行(M・Tバンク)を実施しておりますので求職する場合(パート、永久a、永久b(仲人付き)も、人を捜す場合も(パート専用、永久a、同b)も十分にご利用下さい。

厚生課も教務課も重要な部門です。頻りに交代されては困ります。「二人とも五年以上は交代無しで願いたい」と思っています(病氣も老衰も

困る。ゴルフでも体力を付けてもらわねば、厚生課長が就職開拓で卒業生諸氏の所を訪れた時は、宜しくごひいき願ひます。

②教育(特に実習)

学内実習は今年から二教科(検査総論II、医動物学実習)を除き総て専任教員で指導出来るように成りました。喜ばしいことです。唯、学生は悲鳴をあげるかも知れません(卒業生諸氏の中には早く卒業して良かったと思う者も居るのでは?)この事によってどの程度教育効果上がるか、乞うご期待ノ臨地実習は特別実習と名を換えて二十一週行われて居り、卒業生諸氏にお世話になって居ります。絞め上げて下さい。学生が臨地実習から帰ると一人前の技師になった様な大きな顔を良くするので、頼もしいと思ふのだけど、三月の第二日曜日後、頼もしくなくなる(大きい顔をされた者に多い)のが残念です。

③国家試験合格率

ここ数年国家試験合格率が低迷していますが、五十九年春は六十九・二パーセントまでになりました。今年は八十五パーセントになるよう祈っています。この低迷は本学学生の甘さ、教員の甘さによる。此処二、三年検査技師向きでよい者は方向転換を暗示しますが、転換したほうが好ましいと思われ者に限って暗示が通じない(?)場合が多い。

④教科外行事

昨年の学園祭は、運動会、バザー、文化研究発表の三部門について行われたのですが、三年生が加わって居なかつたこともあつてか、私の見た目には低迷でした。ここ二、三年この様な状態です。

私はこの学園祭と卒業教育(講習会)とを合わせて十月に開催して欲しいと思つています。卒業教育をこれ迄の様な学会形式(新人にとつて大勢の前で挙手をして質問するには勇気が必要)でなく、銀大内で露店形式(展示発表形式 || man to man form)で行い、その内容は研究発表で無く、検査の手段を後輩(新人)に直接教えるか或いは逆に習う様な形式で行なわれること(本当の卒業教育と思う)を願つています。

この合併形式を願う理由はあと二つ有ります。それは、①在学生が将来の自分達がどうい様な仕事をするのか、職場を目的の当りに見られる、また自分達が行っている学内実習と現場の仕事との関連が判る。②学生が運動場で行う(学園祭)バザーの収益金の出所が先輩達から入る(此れまでの学園祭では学生の間で金の移動が行われるだけである)ことである。ですから卒業生諸氏に卒業教育については是非ご検討頂きたい。勝手なことを記載居りましたがご容赦頂きたいと存じます。



厚生課長 高木一路

新しい門出に寄せて

昭和六十年、昭和の世代も一つの区切りとしての還暦を迎える年になりました。

熊本市医師会が、その前身である熊本医学技術専門学校が、わが国の科学の進歩に伴い、中でも医療技術の進展に即応すべく、昭和三十四年に化血研(古京町)内に設立されて以来二十六年を経過し、将に青年期を迎へ、その間今日まで全国津々浦々の第一線で活躍している卒業生の数も二千名に垂んとする大きな所帯になつてまいりました。

又、今年の三月には、新たに看護科が併設されて以来初めての卒業生を送り出すことになり、今後各地の医療機関に携わる同窓生の数も益々広汎に渡つてまいります。

愈々、今年も卒業・就職のシーズンになってきました。今年も卒業生、卒業生の就職に関しては年々厳しさを増していると言われながら、同窓生諸兄の紹介もあり、二月現在で県内外をはじめ関東・関西地区を含め八十五施設から百五十名の求人の申込を受けております。

その中で、今年の卒業生九十五名の内、約半数の者が採用決定しておりますが、殆んど県内若しくは九州管内に止まり、折角、中央からの求人申込があるにも拘らず、希望者は年々減少の傾向にあることは、夫々諸般の事情があるとは云え、誠に残念であります。彼等にとつては初めて社会に出る時、その職場又は周辺に先輩が居ることは大きな励み(甘えではなく)にもなり、是非同窓生諸兄の学生に対する働きかけたいところではあります。

只今は卒業試験終了後の認定に合格するや、間もなく三月十日の国家試験を間近に控え、勉強中であり、夫々一抹の不安はかくせないよう、そのため就職に対する態度を保留している者も多数いるようです。

何れにしても新しく卒業する学生本人にとつては、国家試験と同時に就職問題が一番の関心事であり、又学校としても国家試験合格及び就職率の向上は大きな使命でもあります。

同窓生諸兄の一層の御引見と御紹介を戴きたいところであります。一方看護科の新卒業生三十四名に対する求人申込は、一〇〇施設から募集人員総数三〇〇名以上に達しており、全国的にもこの当分は看護婦の求人難の状況が続くことが予想されます。他方昨年来、医療を取り巻く環境も益々その厳しさを増す中で、近代科学の長足の進歩と相俟つて、医療技術の高度化・専門化による益々の医療技術の向上が要望され、検査技師として

の医療技術がその真価を発揮する時代が到来したと云えるのではないのでしょうか。その意味からも、各人の日頃からの研鑽は勿論のこと同窓会として緊密な情報の交換と相互の円滑な交流が益々重要になってまいります。

熊本城と縁のある銀杏の二字のもと、学長をはじめ教職員一同は、伝統ある本学の建学精神を継承し、教育の涵養に努力しております。願わくば、現代医療の一翼を担う社会に貢献せんとする本学同窓生諸兄の益々の団結と発展を希望して止まない次第であります。

(二月末日現在)



会計報告

暖かな陽射しの頃となりました。皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて会計より昭和58年度決算報告及び昭和59年度中間報告を別表のごとく掲載させていただきます。58年度決算は例年通りに加え、会誌(名簿)発行事業がありその分の出費が加算されております。これは久しぶりの発行であり、活発

卒業するにあたって

銀大第15回生 田中ひろみ

月日の経つのは、早いもので、三年間の学生生活も、卒業式の日を最後に、終わってしまいます。三年前の春、希望に胸をふくらませて、入学したのが、つい先日のような気がします。この三年間を振り返って、様々な出来事がありました。二年生の頃に、微生物学の担当者だったこと、入学して半年目頃から、専門が入ってきてレポートに追われるようになり、本当に自分は検査技師になれるのかという疑問や、ついていけないのだらうかという迷いを、いなくようになり、

しかし、担当者という責任のある立場になりました。しかし、担当者という責任のある立場になって、とにかく勉強しなければいけないんだという気持ちになり、夜遅くまでかかる準備や実験に追われて、悩んでいる暇などなくなり、その反面、自分は目標に向かってゆくんぞだ、という実感が湧いてきました。また、この時期が、最も忙しく、つらかった日々でもあったのですが、今にして思うと、一番充実していた時

な活動に併う出費なら歓迎すべきものであると思われ。ところが、59年度中間報告が近年にない形になりました。収入、支出が低迷し、そのまま活動の低調さを示している様に思われます。例年、会計としてはこの欄で会費納入をお願いしておりますが、次の活発な活動を信じて御協力をお願いしたいと思います。

話は変わって、常に話題になるのが会費の納入状況です。そこで過去5年間の資料を引っぱり出してまとめてみました。

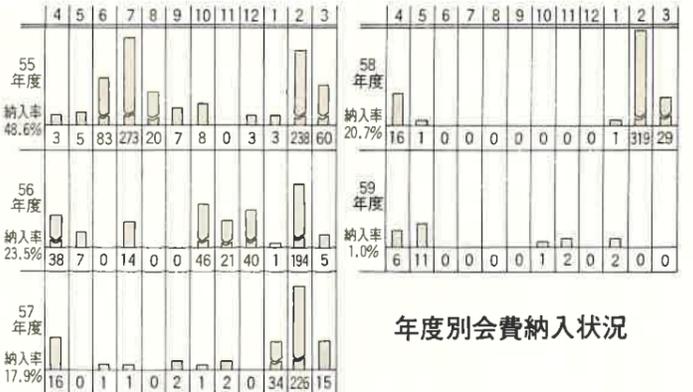
卒業期別・年度別会費納入状況で見ると、納入率は医技専が銀大に比べ良い様です。(医技専の先輩方には感謝致します) 年度別会費納入状況では、数字だけではピンとこないで視覚的にまとめました。納入時期としては2(7)月に集中しておりますがこれは講習会開催時期にあたり、例年この時期に納入頂いたのが大部分です。ただこれもマンネリ化したつあるのか年をおつて下降気味と思われ。58年度は合同クラス会を開催したので少し向上しましたが、講習会だけで15%位だったので

はと思われ。合同クラス会みたいな活動もこれから考えねばならないと思えます。ちなみに59年度は、会費納入の機会(講習会等)が開かれず、納入状況も非常に低調でした。5年間まとめで納入率は21%ですが55年度が48%と良かっただけに最近の低下が気になります。会計としては、今後会の活動がさかんにになり、それに従って納入率が向上することを期待しております。

期だったようにも感じられるのです。また、三年生の臨地実習では、かなりプラスになることが多く、技師の方の働きを見て、自分も、早く検査技師になりたいと、毎日のように思い、焦燥にかられていたものでした。他にも、まだまだ、楽しかった事、哀しかった事、つらかった事など、数えきれないほど、ありますが、一生忘れられない思い出ばかりです。

最後に、これから始まる新しい職場での生活に、卒業生の誰もが、不安をいだいていると思えます。しかし、医療に携わる者として、今後、ますます多くの知識を習熟していかなければなりません。現場へはいって、旺盛な好奇心を持ち、意欲をもって一歩ずつ、決して立ち止まることのないように、進んでいきたいと思えます。

また、三年生の臨地実習では、かなりプラスになることが多く、技師の方の働きを見て、自分も、早く検査技師になりたいと、毎日のように思い、焦燥にかられていたものでした。他にも、まだまだ、楽しかった事、哀しかった事、つらかった事など、数えきれないほど、ありますが、一生忘れられない思い出ばかりです。



年度別会費納入状況

卒業期別・年度別会費納入状況

[医技専]		54年	55年	56年	57年	58年	59年	累計	納入率(%)	人数(人)
1期	1	15	10	4	11	0	40	36.4	22	
2	0	10	4	6	10	1	31	28.2	22	
3	2	23	9	9	5	0	46	36.8	25	
4	1	26	9	10	17	0	62	44.3	28	
5	0	24	15	10	10	2	61	27.7	44	
6	1	23	13	7	6	0	49	22.3	44	
7	3	23	10	8	11	2	54	24.5	44	
8	1	20	5	10	12	0	47	19.2	49	
9	0	22	12	8	10	0	52	21.2	49	
9	9	186	87	72	92	5	441	27.0	1635	

[銀大]		54年	55年	56年	57年	58年	59年	累計	納入率(%)	人数(人)
1	1	49	19	23	22	0	113	21.5	105	
2	1	65	38	23	29	3	158	28.7	110	
3	1	47	17	19	15	2	100	18.5	108	
4	1	33	11	15	14	0	73	14.0	104	
5	2	50	22	19	17	4	112	20.6	109	
6	0	46	24	15	20	0	105	19.4	108	
7	2	54	35	17	19	2	127	20.3	125	
8	0	62	37	19	14	3	135	23.1	117	
9	0	67	32	14	19	1	133	24.0	111	
10		35	21	21	30	1	108	17.6	123	
11			23	21	21	0	65	15.0	108	
12				20	21	1	42	13.2	106	
13					33	2	35	15.9	110	
14						0	0	0	98	
15										
		8	508	279	226	274	19	1306	19.9	6570

銀杏学園短期大学同窓会 会計監査報告書

銀大同窓会昭和58年度会計収支明細及び必要書類(領収書を含む)を監査し、異常なき事を認めます。尚、会費収入については、継続して未納者対策をおこなうこと。

昭和60年3月25日
熊大附属病院病理部 大塚邦子
熊本市医師会熊本地域医療センター 田代透

昭和58年度決算報告 (単価:円)

収入	支出
前年度繰越金 2,495,230	講習会費 322,768
入会金 132,000	会議費 54,580
年会費 632,500	通信費 54,510
雑収入 26,784	払込手数料 4,420
計 3,286,514	会誌発行費 487,500
	事務用品費 21,480
	予備費 154,340
	計 1,099,598
	昭和59年度への繰越金 2,186,916

昭和59年度中間報告 (単価:円)

収入	支出
前年度繰越金 2,186,916	会議費 16,400
入会金 139,500	通信費 179,880
年会費 192,000	払込手数料 850
雑収入 9,681	事務用品費 14,815
計 2,528,097	予備費 56,900
	計 268,845
	昭和60年3月現在高 2,528,097-268,845=2,259,252

蔵元虎蔵先生 「金井泉賞」受賞決る

銀杏短大を退官されました蔵元先生がこのたび金井泉賞を受賞されることになりました。

金井泉賞は昭和54年に設置され、臨床検査に関する学術および技術の向上に寄与することを目的に後進の指導、育成と広く社会に貢献のあったものに贈られ、今年度は全国から3名が受賞されます。

贈呈式は5月18日に開かれる第34回日本臨床衛生検査学会の式典で行なわれます。現在、蔵元先生は、財団法人実験医学研究所で活躍されております。今後私たちが銀大同窓生を御指導していただくようお願い致します。

総会及び懇親会の御案内

例年、講習会時に総会及び懇親会を開催しておりますが、今年度は講習会が中止になりましたので、総会及び懇親会のみを行ないます。

日時 昭和六十年五月十八日 午後六時
会場 岩手県盛岡市駅前通り 盛岡シティホテル一階 啄木館
懇親会会費 二千元
会場の都合もありますので、出席される方は是非左記まで電話かハガキで五月十日までに連絡して下さい。

連絡先 千860 熊本市清水町大窪八一九 銀杏学園短期大学内 銀大同窓会事務局
096-3447611